

第1部

チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」から
情景(白鳥のテーマ)〈バレエ付〉
ワルツ
白鳥達の踊り〜4羽の白鳥〈バレエ付〉
白鳥達の踊り〜パ・ダクシオン(ヴァイオリン・ソロ)
ハンガリーの踊り、チャールダーシュ
終曲〈バレエ付〉

第2部

ヨハン・シュトラウス2世:オペレッタ「こうもり」から“乾杯の歌”(ソプラノ+テノール)
ワルトイフェル:“愛しの彼女”
エドゥアルト・シュトラウス1世:ポルカ・シュネル「粹に」
レハール:オペレッタ「メリー・ウィドウ」から“ヴィリアの歌”(ソプラノ)
ヨゼフ・シュトラウス:ポルカ・シュネル“休暇旅行で”
レハール:オペレッタ「微笑みの国」から“君は我が心の全て”(テノール)
ヴェルディ:オペラ「椿姫」から“乾杯の歌”(ソプラノ+テノール)



浮ヶ谷孝夫 (指揮) Takao UKIGAYA, Conductor

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アーレンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはボメラニアン・フィル(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニー・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年、2019年、「ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト」と日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共演。多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。



西本真子 (ソプラノ) Mako Nishimoto, Soprano

武蔵野音楽大学及び同大学大学院を首席で卒業・修了。大学在学中より第17回練馬文化センター新人オーディション最優秀賞、第56回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学・一般の部第1位及びグランプリ、都築音楽賞、日本放送協会賞他、数多くの賞を受賞。2012年フィリピン国立劇場「蝶々夫人」タイトルロールにて国際デビュー、2013年シンガポールエスプラネードシアターでも同オペラに主演。2014年リゾーツワールドマニラにて「ベスト・オブ・オペラ」、2016年中国貴陽市交響楽団演奏会、2017年ウィーン楽友協会「国境なき合唱団10周年記念特別公演」等に招聘され出演し、各公演にて成功を収める。国内ではこれまでに「フィガロの結婚」スザンナ、伯爵夫人「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ、デスビーナ「椿姫」ヴィオレッタ「ラ・ボエーム」ミミ「トゥーランドット」リウ「友人フリッツ」スーゼル「トスカ」タイトルロール「イル・トロヴァトーレ」レオノーラ「仮面舞踏会」アメリア「ドン・カルロ」エリザベッタ「ナブッコ」アビガイル「マクベス」マクベス夫人等、数多くのオペラにメインキャストとして出演し、情熱的な歌唱と美しい舞台姿で人気を博す。2018年藤原歌劇団「ナヴァラの娘」(日本初演)アンタにて同歌劇団にデビューし、2021年「フィガロの結婚」伯爵夫人、2022年「イル・トロヴァトーレ」レオノーラ、2023年「二人のフォスカリ」ルクレティアを好演、公演を成功に導いた。また、映画「テルマエオモエII」のソロ、鈴鹿サーキット2019年 第48回鈴鹿10時間耐久レースにて国歌斉唱を務めるなど、益々活躍の場を広げている。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。静岡県出身。



澤崎一了 (テノール) Kazuaki SAWASAKI, Tenor

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第27期生修了。第30回ソレイユ音楽コンクールにて第2位及び優秀賞受賞。第53回日伊声楽コンクール第2位及び五十嵐喜芳賞受賞。第2回V・テッラーノヴァ国際声楽コンクール第1位。藤原歌劇団には、2016年「トスカ」のスポレッタでデビュー以降、18年「道化師」ペッペ、19年「ラ・トラヴィアータ」アルフレード、20年「カルメン」ドン・ホセ、21年「蝶々夫人」ピンカートン、「清教徒」アルトゥーロ、23年「トスカ」カヴァラドッシ、24年「ファウスト」タイトルロールで出演し、いずれも高い評価を得ている。また、グランドオペラフェスティバル in JAPAN「蝶々夫人」の同役には21〜23年に連続出演。また、24年ジ・インベリアルオペラ「トスカ」カヴァラドッシ、25年につば丸新春のオペラクルーズ「ラ・ボエーム」のロドルフォで出演している。日本オペラ協会には25年「静と義経」義経でデビュー。その他、これまでに「リゴレット」マントヴァ公爵、「ラ・トラヴィアータ」同役、「連隊の娘」トニオ、「愛の妙薬」ネモリーノ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、「秘密の結婚」パオリノ、「こうもり」アイゼンシュタイン及びアルフレード、「夕鶴」与比呂等、様々なオペラに出演している。15年ビントでのトラエッタ・オペラフェスティバル「蝶々夫人」の同役にてイタリアデビュー。平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「ラ・ボエーム」のロドルフォに抜擢され好演。15年より、文化庁子どものための本物の舞台体験事業「てかがみ」のリチャード・マクベインで3年連続出演している。また、ヴェルディ及びモーツァルトの「レクイエム」や「第九」「メサイア」、天皇陛下御即位二十年奉祝曲「太陽の光」を歌うなど、多岐に渡り活躍している注目のテノール。今後は、2026年1・2月に藤原歌劇団公演「妖精ヴィッリ」のロベルトで出演を予定している。藤原歌劇団団員。立教池袋中学・高等学校講師。神奈川県出身。

NBAバレエ団

1993年に発足した埼玉で唯一のバレエ団。コロラドバレエ団プリンシパルとして活躍した久保統一が芸術監督を務める。年間を通じて首都圏で公演を主催し、2014年「ドラキュラ」日本初演、2018年「海賊」(新垣隆による一部作曲・編曲)、2019年久保統一版「白鳥の湖」、2021年ヨハン・コポー振付「シンデレラ」世界初演など斬新な企画で高い評価を受けている。また、毎年1月には「世界に羽ばたく若きバレリーナの育成」を目指し「NBA全国バレエコンクール」を開催。ローザンヌ国際バレエコンクールなどで優秀な成績をおさめるバレリーナを数多く輩出している。映画「翔んで埼玉」に男性ダンサーが出演するなど幅広い活動で注目を集める。

東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的に参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回シヨパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタペ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&ブラジド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。